

5
アジア都市景観賞 周年記念誌



ASIAN TOWNSCAPE AWARDS
アジア都市景観賞
亞洲都市景觀獎

ASIAN
TOWNSCAPE



発行元：公益財団法人福岡アジア都市研究所
住 所：〒810-0001 福岡市中央区 天神1-10-1
T E L：+81-92-733-5686
U R L：http://www.urc.or.jp

2015.03

AWARDS

福岡アジア都市研究所は、アジアの交流拠点都市をめざす福岡市のシンクタンクとして、都市戦略の研究を行っており、アジア都市景観賞の事務局を務めております。アジア都市景観賞は、「アジアの人々にとって幸せな生活環境を築く」という目標に向けた都市や地域の取り組みや活動を讃えるものであるとともに、この賞をきっかけに広くアジアの都市間交流へとつなげていくこと目指しております。

これまでに、アジア都市景観賞を受賞されたのは、12カ国・地域の48都市、54件を数えています。そして、「まちづくり」や「都市景観」を橋渡しとした国や地域を超えた交流の輪が広がっていることを、主催団体の一員として、大変うれしく思っております。このたびアジア都市景観賞の5周年の節目を迎えるに当たり、記念事業の一環として、記念アルバムを編纂・発行することとなりました。

この記念アルバムには、アジア都市景観賞の生い立ちから今日に至るまでの足跡が記されており、関係者の皆様がこの賞に寄せてこられたさまざまな想いを窺い知ることができます。また、アルバムに収録されている過去5年間の授賞対象を俯瞰すれば、それぞれの都市が社会背景やその成り立ちに違いがあるものの、いずれも市民や関係者の創意工夫により、それぞれの都市のアイデンティティーを表現しながら将来に向けた鮮やかなメッセージを発信していることに気付かれるでしょう。

今後も、本景観賞の理念が広く共有され、アジアの諸都市の市民や関係者の地域やまちづくりに寄せる熱い思いの交流の場として、アジア都市景観賞をさらに発展させていくことを願っております。



福岡アジア都市研究所理事長
九州大学理事・副学長

安浦 寛人
(YASUURA, Hiroto)

目 次

一 まえがき	/ 安浦 寛人
02 主催者ご挨拶	/ 深澤 良信
04 概要	
06 審査委員長からのメッセージ	/ 佐藤 優
10 歩み	/ 2010-2014
12 創設者の思い	/ 野田 順康
14	張 元端
16	松本 法雄
18 審査委員からのメッセージ	/ 齋木 崇人
20	禹 申九
22	陳 安華
24 授賞対象案件の分類と特徴	/ 坂井 猛
30 授賞案件	
38 受賞者の声	/ 日本
	/ 韓国
	/ 中国
41 あとがき	/ 劉 興達



国連ハビタット福岡本部
本部長
深澤 良信
(FUKASAWA, Yoshinobu)

アジア都市景観賞5周年記念を迎えるに当たり、主催団体を代表して、賞の目的や主旨にご賛同いただき、その実施運営にご尽力いただいた関係団体の皆様に、深く敬意を表し、感謝を申し上げます。

アジア都市景観賞は開催の回を重ねる毎に、応募参加団体が増え、これまでにすでに12カ国・地域の48都市、54の対象を表彰してきました。受賞対象には創造的またはダイナミックな例が多かったことを鑑み、景観

賞の理念が一層広く、また深く浸透しつつあることを特に嬉しく思うところです。

私ども国連ハビタットは、国連システムの中で、災害に負けない、安全で安定した、持続可能な人間の住まいやまちを実現することを主な命題としております。快適で持続可能な住まいやまちの形成に都市景観の果たす役割は大変大きく、国連ハビタットの基本理念でありますくハビタットアジェンダ>の中にも、「都市の歴史的、精神的、文化的に特色ある地区、建物や景観や環境を尊重する」ことの重要性を謳っており、「その保護や維持につとめること」としております。

現在、アジア地域においては、多くの国で著しい経済成長が見られる中、自治体、あるいは官民、そして市民との連携による優れた都市計画や都市開発事業によっ

て機能的で魅力的な都市やエリアが多数誕生しております。美しい都市は新たな投資や創造的事業の誘致や拡大に欠かせない要素であります。一方、貴重な伝統・文化や習慣など、歴史的意義の深い建造物や町並みの保存も、特色ある都市やまちの形成には不可欠です。持続可能な開発の一方で、これらが失われることなく、人々の生活と周囲の環境が調和して織り成す身近で暖かな生活空間となるよう、注力してまいらねばなりません。これらに対立することなく、包摂的に取り組み、次の世代へ継承していくことが関係者全員の責務であると考えております。そのような意味においても、我々国連ハビタットがアジア都市景観賞の共催者として、アジアハビタット協会、福岡アジア都市研究所、アジア景観デザイン学会の皆様と一緒にその普及に取り組ませてい

ただけることは、大変意義深いものと考えております。アジア都市景観賞は、このような目標に取り組む関係者や市民のご努力を認知する機会であるとともに、それぞれの都市に住まう人の一層の当事者意識の形成や啓発に寄与するものです。また、各都市における優れた都市景観づくりの政策・計画・事業や活動から相互に学ぶ交流の機会でもあります。都市や国の枠組みを超え、地域共通の貴重な資産である都市景観を創造し、維持・保護を担う人々の貴重なプラットフォームとして、アジア都市景観賞の理念が続いていくことを願ってやみません。



1 湖畔家園 塞上明珠(中国、銀川)

2 アクロス福岡(日本、福岡)

概要

01 アジア都市景観賞とは

アジア都市景観賞は、アジアの人々にとって幸せな生活環境を築いていくことを目標とし、他都市の模範となるすぐれた成果をあげた都市、地域、大きなプロジェクト等を表彰する



02 アジア都市景観賞のねらい



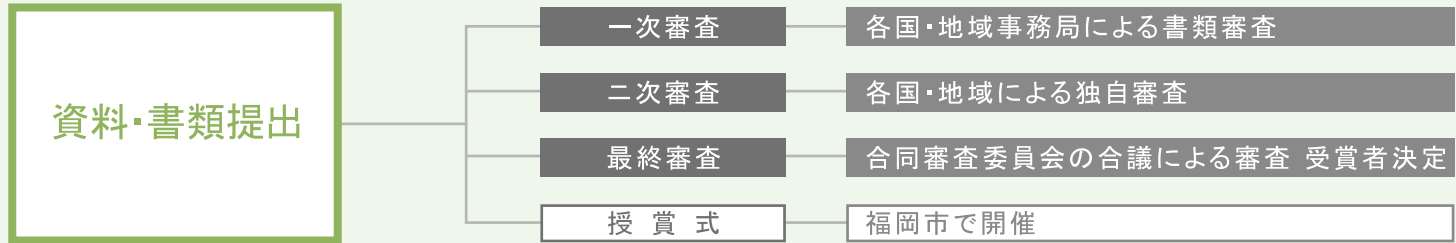
03 アジア都市景観賞の表彰対象

- 01 都市・地域
- 02 都市や地域に貢献する大きなプロジェクト
- 03 自然・二次自然の保護・育成に関する事業
- 04 地域の発展に貢献する建造物・プロジェクト
- 05 [設計段階]のもの
- 06 景観の発展に貢献した団体
- 07 景観の発展に貢献した個人

04 アジア都市景観賞の評価基準について

- 01 地域環境に優しく、共存するものであるか。
 - 生態環境と調和していること
 - 人間性に立脚した事業であること
- 02 安全で利用者に優しく、持続性があるか。
 - 安全・安心で、快適であること
 - 持続性があること
- 03 地域の文化、歴史を尊重しているか。
 - 生態環境と調和していること
 - 人間性に立脚した事業であること
- 04 芸術性が高いか。
 - 独創的で完成度が高いこと
 - 美しいこと
- 05 地域の発展に貢献し、他都市の模範となるか。
 - 地域の人々に受け入れられ、地域の発展に貢献すること
 - 他の都市や事業の模範になること

05 アジア都市景観賞のフローチャート



06 アジア都市景観賞の申請資格について

- 01 アジア都市景観賞に申請する意思があり、かつ都市景観形成において優れた実績を上げ、広く模範を示す意義があると考ええる都市、地域、プロジェクト等
- 02 審査委員会が推挙するもの
- 03 都市景観関連学会、協会及び審査委員その他の関係者が推薦するもの

アジア都市景観賞が5周年を迎えたことについて、創設・審査・運営に関わった関係諸氏及び受賞された54の都市・関係機関の皆様とともに喜びを分かち合いたいと思います。思い起こせば、この5年は短いようでとても長い波瀾万丈の5年でした。7年前にアジア独特の景観の魅力を評価し世界に伝えたい、という目標を持って議論が始まりました。6年前に募集要項ができて、直ちに公募を開始し、5年前には北京で国際審査会が開かれて、福岡で最初の授賞式が開催されました。それは、国際的な連携をはかりながら、驚くようなスピードで進みました。

それまで、都市規模の国際的な景観賞はありませんでした。しかも、アジアは広大で多様な風土と文化

を有しているために、画一的な評価基準などあるはずもなく、アジアの奥深い景観を欧米的な考え方や方法で導くのは間違っていると考えました。独自の評価を示すことによって、アジアの魅力を強く意識するようになり、そして自信を持つことができると考えました。しかし一方で、国によって規模や経済力の差も大きく、一部の国が賞を独占するのではないかという危惧もありました。

この5年で記憶に残った受賞対象を振り返ってみましょう。

1年目(2010)は、中国内モンゴルの「恩格貝」が砂漠を緑に変えていくという、気の遠くなるような挑戦が注目されました。崇高な目標に向かって歩みはじめた



1年目は、意気揚々として理想に燃えた審査会になりました。

2年目(2011)には、評価方法で激しい議論が繰り広げられ、やっと5項目の審査基準の合意に至りました。この基準に沿って2年目に注目されたのは「済州島のオルレ」で、地域の小径に分け入って散策する運動は、韓国を超えて世界に広がりを見せました。

3年目(2012)では、政治の確執によって、来日のた

めのビザが出るかどうかギリギリまでわからない事態となり、開催自体が危ぶまれました。特にアジア都市景観賞は、はじめてから国や行政とのかかわりが



した。大規模開発ではなく、生活を基盤としながらアートによって地域の魅力を見直すプロジェクトが新鮮で、現在では国内有数の観光地に育っています。

4年目(2013)には、早くも賞の対象のバラツキが問

アジア都市景観賞の5年間の蓄積

九州大学副理事
アジア景観デザイン学会名誉会長
(ata審査委員長)

佐藤 優
(SATO, Masaru)



題になりました。大賞と奨励賞などを分けることが議論されましたが、結局は景観賞のみとすることになり、議論を翌年に持ち越しました。この年は、雨天が多い松江で雨の景観や情緒を楽しもうとする「縁雫（えにしずく）」というキャンペーンが注目されました。暑くて雨が多いアジアの気候風土を前向きにとらえたコンセプトが審査員の心を捉えました。また、中国の都



市と農村を交換する「杭州白馬湖」のプロジェクトも画期的なコンセプトを示しました。いずれも、秀でた理念が地域の発展を支えている事例です。

5年目(2014)は、宗教や経済力の壁を乗り越えようとするプロジェクトが複数出てきました。大型の開発だけが評価されるのではないという方針が歓迎され、小さな国からも応募がありました。しかし、アジアならではの多様な概念をどのように解釈するかが大変に難しく、審査が紛糾しました。しかし、これこそが最初に望んでいた議論であり、このような議論ができるようになったことを心から嬉しく思いました。また、打合せもしていないのに、中国の審査員である劉氏からも同じ見解を聞くことができました。アジアの特徴的な



個性を際立たせながら、その意味を解釈するグローバルな感覚が一致するという、素晴らしい体験をしました。

景観は、一朝一夕ではできません。長い時間をかけて望ましい方向に導く計画力と根気が必要な仕事です。そのような凝縮した能力と時間を要する成果として、アジア都市景観賞では5年間で12カ国・地域、54の都市やプロジェクトを表彰してきました。この蓄積の

意味は、計り知れないほど深く大きいものです。夢のようなことであります。受賞した54の対象は、素晴らしい事例となり、これからのアジアの諸都市の目標となるでしょう。アジアの魅力を共有することによって、このかけがえのない価値をアピールし、多様な幸せの姿を再認識していただきたいと思います。

5年間、アジアを牽引するこの賞の事務局を務めてくださった、アジアハビタット協会と福岡アジア都市研究所の皆様にご心より御礼申しあげたいと思います。また、支援してくださった中国政府や福岡市に感謝致します。

今後のアジアの繁栄と、そこに住む人々の幸せを願ってやみません。



ata 活動年表

2010

- 04月27日 北京 シティプロモーション「福岡市の景観形成によるまちづくり」開催、アジア都市景観賞事業スタート
- 06月26日 上海 アジア景観学会上海大会開催、アジア都市景観賞創設宣言
- 08月27日 北京 アジア都市景観賞合同審査会開催、記者発表会
- 09月21日 福岡 2010年アジア都市景観賞授賞式、6カ国・地域、11都市から182名参加



北京/シティプロモーション「福岡市の景観形成によるまちづくり」



上海/アジア景観学会上海大会開催



福岡/2010年アジア都市景観賞授賞式

2011

- 03月30日 北京 アジア都市景観賞評価基準検討会開催
- 05月18日 北京 アジア都市景観フォーラム開催
- 10月11日 北京 最終審査会開催
- 11月01日 福岡 2011年アジア都市景観賞授賞式、4カ国・地域、10都市から121名参加



北京/アジア都市景観賞評価基準検討会



北京/最終審査会



福岡/2011年アジア都市景観賞授賞式

2012

- 03月01日 福岡 主催団体代表協議、覚書締結
- 07月01日 北京 福岡市長 アジア都市景観賞授賞地視察
- 08月08日 福岡 2012年アジア都市景観賞日韓合同審査会
- 08月20日 北京 2012年アジア都市景観賞最終審査会
- 11月27日 福岡 2012年アジア都市景観賞授賞式、4カ国・地域、9都市から88名参加



杭州/2013年アジア都市景観賞最終審査会



北京/2012年アジア都市景観賞最終審査会



福岡/2012年アジア都市景観賞授賞式

2013

- 08月09日 福岡 2013年アジア都市景観賞日韓合同審査会
- 10月09日 杭州 2013年アジア都市景観賞最終審査会
- 11月26日 福岡 2013年アジア都市景観賞授賞式、5カ国・地域、11都市から133名参加



福岡/2013年アジア都市景観賞授賞式

2014

- 08月11日 福岡 2014年アジア都市景観賞国内予備選考会
- 10月08日 福岡 2014年アジア都市景観賞合同審査会
- 11月18日 福岡 2014年アジア都市景観賞授賞式、6カ国・地域、12都市から106名参加



福岡/2014年アジア都市景観賞合同審査会



福岡/2014年アジア都市景観賞授賞式(交流会)



福岡/2014年アジア都市景観賞授賞式



西南学院大学教授
元国連ハビタット福岡本部 本部長

野田 順康
(NODA, Toshiyasu)

アジアハビタット協会との初めての出会いは2006年10月ですから、早いもので、今年で丸9年になります。当時私は、国連人間居住計画（ハビタット）の福岡本部長を務め、同協会から福岡市を含めた協力協定を結びたいとの強い要請を受けました。なかなか拙速に合意書を作ることは出来ないため、知恵を出し合い、会議の覚書（Minutes）に署名することで協会にも福岡市にも納得してもらいました。ここが我々の協力関係の始まりだと思っています。

当初は住宅関連研修会の開催で、連携・協力が進んでいきましたが、2008年10月の第4回世界都市フォーラム（南京）において、協会から景観研究の提案がなされ、国連・福岡市の支援を受けて、福岡アジア都市研究

所（URC）において都市景観賞研究（2009年2月）、アジア都市景観推進プログラムの形成（2009年4月）へと発展していきました。

2010年4月には、いよいよ第1回都市景観賞のアセスメントが始まり、6月の都市景観賞創設式（上海）、8月の最終審査会（北京）を経て、9月21日には第1回アジア都市景観賞授賞式が福岡で開催されるに至ったのです。この後継続して開催してきましたが、その基盤をより強固なものにするために、2012年5月には国連ハビタット福岡本部・アジアハビタット協会・URC・アジア景観デザイン学会による、共同開催のための協定書を結ぶこととなりました。

2014年10月に第5回の授賞式が福岡で開催され、一

つの節目を迎えたと思っています。この間、参加国は中国・韓国・日本から広くアジアの国々に拡大しています。「アジアの国々に景観問題はまだ早いのではないか」と言った質問を受けたこともあります。そんな事はないと考えています。経済の急成長とともに、アジアの主要都市の関心事は先進国のそれを追隨していて、持続的発展、環境保全、景観等に対する関心はかなり高いものになっているのです。今後は国連の都市政策においても重要な要素になってくるでしょう。そのような追い風を受けて、当景観賞がますます発展していくことを願ってやみません。



1



2

- 1 西安園芸博覧会
- 2 雲南 浄水ダム
- 3 都市開発懇話会



元アジアハビタット協会理事長

張 元端
(ZHANG Yuan-Duan)

急速な都市化がアジアの至るところに絶え間なく姿を現し、人々が日一日と街の記憶を失い憂えるまさにその2010年、我々は「アジア都市景観賞」を設立し、新たな一歩を踏み出しました。

賞の設立を通して、アジア各国の都市景観形成経験の交流とその成果の共有を期待するとともに、このようなアジアの優れた実践が世界規模で知られ、普及されることを願っていました。

創立から5年の時を経て、主催4団体によるたゆまぬ努力と真摯な協力のもと、この賞のアジアにおける参加率、影響力、知名度はますます高まっています。5年間で計12か国・地域の48都市の54プロジェクトが受賞したことを、我々は大変喜ばしく思っています。

表彰された都市やプロジェクトは、いずれも美しい景観の形成、歴史文化の継承、地域環境との共生などの理念と実践に重きを置いています。受賞を通して、作品はより多くの都市経営者・都市プランナー・建築者の知るところとなり、そのインスピレーション・手本となっています。

もちろん、総体的に人口過多・資源不足という現実の中、経済条件や発展段階などそれぞれの要素は異なっており、アジアの都市発展は多くの成果を収めたと同時に、依然としてたくさん問題にも直面しています。特に伝統文化や地域特性の保護伝承といった領域において、程度に差こそあるものの、不十分な部分はまだまだ多いと思います。調和のとれた住みやすい居住環境を

如何に構築していくかは、今もなお重要な課題として我々の目の前に立ちはだかっています。

各界において、より多くの方々が、今後とも都市景観環境形成に対する高い関心を持ち続け、積極的な探求心と実践のもとでアジアに優れた都市景観を創出し、特色のある都市づくりを推進していくと確信しています。その結果、アジアにおける都市景観の全体的な向上を促進し、アジア地域の持続可能な発展を一層推し進めることができるでしょう。

「グリーンアジア、美しい都市」の素晴らしい夢を実現するため、たゆまぬ努力を続けようではありませんか！



- 1 2008年/景観賞草創期協議
- 2 北海道 小樽
- 3 2010年/北京プロモーション
- 4 2010年/最終審査会



1



2



3



元福岡アジア都市研究所副理事長

松本 法雄
(MATSUMOTO, Norio)

日本では都市計画が法定都市計画として定められたのは1968年の都市計画法の制定ですが、この都市計画法では都市景観が都市計画の一つとして位置づけられていませんでした。その後、2004年の都市景観法の制定と都市計画法に都市計画の一つとして位置づけられるまで、各都市に応じた都市計画の保全・創造は地方の条例による指導や勧告などによっていました。この36年の期間の意味するところは、都市景観はそれぞれの都市の歴史、風土、文化など様々な要素が複合した価値により判断されるものであり、一律な基準で定められるものではないことから法に定めることが困難であったものと推測されます。

一方地方自治体レベルでのまちづくりは、まちづくりエリアが広くなく価値観が比較的類似していることもあり、都市景観を構成する要素の価値のコンセンサス形成が行いやすいこと、特色ある景観の形成が地方のアイデンティティを創り出すことに貢献することから、積極的に景観行政が進んできたといえます。その景観行政の中の特色の一つが、優れた都市景観を顕彰することより地域全体で優れた都市景観を進めていこうとするものです。

さて、このように、優れた都市景観は、それぞれ異なる地域の持つ固有の街並み、文化、自然を活かして、その地域にふさわしい景観を維持、創造するものです。

アジア地域はまさに多様な風土、歴史、文化を有する地域であり、一つの価値観で都市を考えることは困難です。こういう観点からアジアの都市景観を考えその優れた景観を学びあうためには、国という枠を超えた組織や専門的人材の知識や知恵を出し合い議論を進め、その結果や成果を表彰し称えあうことから始めることが必要ではないでしょうか。そのスタートとしてアジア都市景観賞を創設したものです。都市景観に代表されるアジアの多様なまちづくりが今後の新たなまちづくりの一つの参考となっていければうれしく思います。



1



2



4

- 1 北東アジア国際フォーラム(中国 哈尔滨)
- 2 マカオ
- 3 4 第6回 ワールドアーバンフォーラム(イタリア ナポリ)

アジアの未来と 都市景観賞の役割



神戸芸術工科大学 学長
齊木 崇人
(SAIKI, Takahito)

地球の生態環境は気候変動と相俟って刻々と変化しています。加えて、人間の営みはこの変化を越えて急激に姿を変容させています。

景観は自然環境と人間の営みが融合し多様な姿を見せられます。特に、私達が住むアジアは多様な自然生態と文化を持っています。その姿が景観として人々に評価され共有され景観文化が生まれるのです。アジア都市景観賞の評価は、21世紀のアジアの景観創造の役割を担っていると仮説します。

2010年にはじまったアジア都市景観賞は、この5年間で大きく変化しました。

第1回2010年「グリーンアジア・美しい都市」は、アジア景観の発見の年であり、アジアの国々で実践された景観事業が地域社会に定着した姿を、歴史や文化的背景を含めて、景観の価値として共有する年でした。

第2回2011年「人間環境と都市復興」では、多様なアジアから生まれた景観づくりの思想を論議し審査する私達が逆に評価される年でありました。

第3回2012年「住み良いまち・豊かな生活」では、個別の「点」としての景観づくりから地域やまちの「面としての景観づくり」へ空間的な広がりを持つ環境が評価の対象でした。

第4回2013年「都市の誇りを育む景観」では、景観の価値をそこに暮らす人々の歴史から再発見し、都市景観の新たな位置づけや可能性を論議しました。

第5回2014年「未来へ幸せをつなぐ景観」では、数十年の時をかけて形成されてきた「景観を作るプログラム」を新しい景観づくりの思想として、動態的に捉える年となりました。

このようにして5年間の審査を通して見ると、アジアの都市景観審査は毎年進化してきたと言えるでしょう。

美しい独創的な景観に気づく事から始まり、その美しい景観には未来への思想があり、その思想はその地域の文化と生態から醸成されている事です。評価対象の景観は「点」から「線」へ、そして「面」へと広がり、やがて時を経て国を越えて次世代を創って行きます。その真っただ中にアジアがあるのです。

5周年を迎え評価された景観文化がどのように生き続けているのか、時を経て評価される景観文化は、そのまま私達審査員の評価となるでしょう。未来の景観価値を生み出すアジア都市景観賞の役割は大きいと言っても過言ではありません。

ガーデンシティ 舞多間(日本、神戸)



1



2



3



4

- 1 同済大学(中国 上海)
- 2 上海市 住宅管理局
- 3 芸術工学会の仲間と(中国 上海)
- 4 2004年/舞多間みつけプロジェクト

アジア都市景観賞 5周年記念を祝して

甘川文化村(韓国、釜山)



釜山大学校工科大学
副学長

禹 申九
(Woo Shin-koo)

ここ数年、都市には新しい風が吹いています。世界化・開放化の時代を迎え、国境の意味は弱くなり、都市間競争が激しくなっています。各都市は競うように企業を誘致し、若い人材を呼び込み、ユニークな文化施設を造っています。しかし、このような都市間競争はかつての国家間競争のように、他都市の反感を買うことや都市間の葛藤へとつながる可能性もあります。

私はこれまで5年間にわたりアジア都市景観賞の審

査委員を務めてまいりましたが、アジア都市景観賞は単に賞を授けるという概念を超え、より多くの意味合いを持ちながら多様な役割を果たしていると考えています。アジア都市景観賞は「賞」という形を取ってはいますが、都市間競争を煽るよりも、「都市景観を媒介に都市間の協力を促していく」という目標を掲げていることに意味があるのです。これまでアジア都市景観賞を受賞した大邱・ソウル・釜山等の韓国の都市も、美しい都市づくりのための経験を他国の都市と共有し、交流を続けています。

都市景観は都市を美しくするための単なる技術ではありません。都市景観はむしろ「その都市の文化や歴

史、市民が共に創り出す都市の精神」に近い装置です。アジア都市景観賞を受賞した数々のプロジェクトからは、西欧と異なるアジアの特徴を見出すことができます。このような意味において、アジア都市景観賞の持つもう一つの役割は「アジアの都市に内在するアジアの心を見つけること」だと私は考えています。このような共通した認識と気持ちを持つことができれば、都市間では自ずと競争だけでなく、調和が生まれ、人々は互いに心が通じるようになるのではないかと考えます。

最後に、5周年を迎えたアジア都市景観賞の益々のご発展を心より祈念いたします。

1 日韓合同審査会

2 3 2014年/合同審査会



1



2



3

アジア都市景観賞の 審査に参加して

閩海灣CBD(中国、銀川)



中国建築科学設計研究院
チーフプランナ
(ata中国審査チーム代表)
陳 安華
(CHEN An-Hua)

アジア都市景観賞は2010年の創立から5周年を迎え、中国からは19のプロジェクト(香港2、マカオ1、大陸16)が受賞しました。中国各地から選出されたこの19のプロジェクトは、それぞれが発展段階の違いを象徴していて、個々に顕著な特色を持っています。

中国のみならず、その他のアジアの国々が表彰されたプロジェクトも、同じように際立つ模範性や革新性を有し、広く普及する価値があると認められています。こ

れこそまさに「アジア都市景観賞」設立の趣旨であると言えるでしょう。

アジア都市景観賞中国審査チームはアジアハビタット協会の指導のもと、主に中国からの申請案件に関する予備審査を行い、さらに合同審査会に参加して、各国から選出されたプロジェクトの最終審査を行っています。

アジア都市景観賞の審査に参加し、審査対象であるプロジェクトやそのプロジェクトが体现するその国や地域の状況を、丹念に理解できる機会を得ることはとても幸運なことです。しかし、一方で、公平公正を保ちながらも、アジアのさまざまな地域における発展レベル

や文化の相違を考慮しなければならないため、時には困難に見舞われることも多いのです。

アジア都市景観賞では、毎回多くの国や都市を象徴する優れたプロジェクトが表彰されています。アジア都市景観賞の影響が徐々に広がっている証とも言えるでしょう。アジア都市景観賞が提唱する理念は、中・日・韓だけでなく、東南アジアや南アジアの国々にも深い影響を与え始めています。これからも、より多くの素晴らしい景観プロジェクトの選出を期待するとともに、アジア都市景観賞の拡大とアジア全域の持続可能な発展のために、智慧を出し合うことが求められています。

1 2013年/最終審査会

2 山東 沂源



アジア都市景観賞 授賞対象案件の分類と特徴



九州大学教授
(アジア景観デザイン学会会長)

坂井 猛
(SAKAI, Takeru)

授賞対象案件は、対象の内容や用途から、「自然環境系」、「歴史環境系」、「公園系」、「業務系」、「住宅系」に分類でき、規模で「都市・地区レベル」と「街路・河川・施設等のレベル」に大別できます。

1. 自然環境系

自然環境を主として景観形成が評価されたグループであり、抱えていた環境上の課題解決を図りつつ、治水や生態環境の回復とともに景観整備に取り組んだ事例が多いです。



太原長風文化ビジネス地区プラットフォーム整備事業（中国）



青島高新区の水系園林景観形成（中国）

西安世界園芸博覧会（中国）

急激な開墾と放牧で著しく破壊された環境を克服した「恩格貝生態模範区（中国）」、汚染された河川やごみの山の地区を環境保全活動によって滞在型観光地にした「西安世界園芸博覧会（中国）」、土砂の堆積した湿地に水陸交差ネットワークを構築した「青島高新区の水系園林景観形成（中国）」、河川の環境回復を軸に開放的な親水空間を実現した「太原長風文化ビジネス地区プラットフォーム整備事業（中国）」、埋立地の水環境の改善を図り安定した生態系の都市水辺空間を実現した「唐山湾エコ・タウン水環境総合整備計画（中国）」、環

境破壊を克服し水路と生態系を復元した「松坡水路復元事業（韓国）」、水質や沿岸景観の改善を行った「カトマウドゥ・バグマティ川清掃キャンペーン（ネパール）」などです。

また、湖水の里道や自然環境資源を活用した広域開発「大忠清圏緑色観光事業（韓国）」、県境を越えた2市で同一名称と条文の関門景観条例と景観形成地域指定による「関門海峡が結ぶ景観に配慮したまちづくり（日本）」、民間主導によるリゾート地のトレッキングルートづくり「済州オルレプロジェクト（韓国）」、水資源の保護整備と植林事業による「生態都市、住みよい銀川（中国）」、都市と農村の一体的な発展戦略を導入した「習水・大小鼓池の持続可能な景観モデル地区（中国）」、自然資源と歴史資源を都市全体として調和を目指した「余杭区（中国）」と「環境都市 Da Nang（ベトナム）」など、本来有している自然環境を活用し付加価値を付けて景



松坡水路復元事業（韓国）



済州オルレプロジェクト（韓国）



余杭区（中国）



環境都市 Da Nang（ベトナム）

観観光に繋いだ事例があります。

さらに、環境に配慮し安全安心を志向した「マイメンシンの戦略的な都市計画（バングラデシュ）」、災害を克服し変化する自然生態への対応能力を強化した「東日本大震災からの復興の象徴三陸鉄道（日本）」などがあります。



東日本大震災からの復興の象徴三陸鉄道（日本）



黒川温泉地区景観づくり事業（日本）

2. 歴史環境系

歴史環境を主として景観形成が評価されたグループであり、歴史的に評価されてきた環境、建造物等を中心に地区全体の景観整備を行い、観光事業に活かしています。

湯治場としての名残を残す閑静で緑豊かな温泉地「黒川温泉地区景観づくり事業（日本）」、水郷独特の歴史的景観を修景した「烏鎮新モード（中国）」、歴史文化保護を行った「申港街道（中国）」、胡同の近隣文化を維持しつつ景観を改善した「北京南鑼鼓巷（中国）」、戦後の広島市における「原爆による廃墟からの都市復興（日本）」、王宮を中心としたバンコクの「歴史的資産を活用



原爆による廃墟からの都市復興(日本)

した国際観光都市づくり(タイ)」、城壁の復元整備と文化町づくり「城北洞歴史文化地区造成(韓国)」、歴史を重ねてつくられてきた町並みの「倉敷美観地区(日本)」と「竹田地区街なみ環境整備事業(日本)」、歴史資源の価値を活かした「Hoi Anの都市景観保全事業(ベトナム)」、「熊本城復元整備とまちづくり(日本)」、「出島復元整備事業とまちづくり(日本)」、「郡山近代文化プロジェクト(韓国)」、「文化遺産姫路城とまちづくり(日本)」などがあります。

また、名所旧跡を繋ぐ路地を探索する再生事業としての「大邱再発見による都市再生プロジェクト(韓国)」、雨の似合う水の都の景観を活かした「縁雫による雨の日の松江プロジェクト(日本)」はユニークなまちおこしの取り組みとして評価されました。

3. 公園系

公園を主として景観形成が評価されたグループであり、いずれも大規模な環境整備を行っています。

ごみ処分場の再生としての「モエレ沼公園(日本)」と「香港・牛池湾公園(中国)」、浄水場施設の再生としての「ソウル・漢江公園(仙遊島, 韓国)」、伝統行事の拠点の再整備である「Bungkul公園改修事業(インドネシ



シーサイドもち整備事業(日本)



華沢ワールドガーデンプロジェクト(中国)

ア)」、埋立地における新設の海浜公園整備である「シーサイドもち整備事業海浜公園(日本)」、親水空間を整備した「沂源都市部居住環境改善事業(中国)」と「華沢ワールドガーデンプロジェクト(中国)」、ランドマークとして広大な公共空間を整備した「コロポ・独立広場改修事業(スリランカ)」などがあります。

4. 業務系

業務施設を主として景観形成を行っているグループです。

総合設計による巨大複合リゾート施設「マカオ・シティオブドリームズ(中国)」、海浜の商業エリア開発として水の流動性を活かした「東営市中心地区開発プロジェクトの景観設計(中国)」、高級商業施設群と住宅からなる「イオン・オーチャード&オーチャード・レジデンス



マカオ・シティオブドリームズ(中国)



鹿児島市の市電軌道敷緑化整備事業(日本)



イオン・オーチャード&オーチャード・レジデンス(シンガポール)

(シンガポール)」、ショッピングモールの再生事業である「ポハン中央商店街景観整備プロジェクト(韓国)」、大都市近郊農村における住居のリフォームによる「杭州白馬湖農居SOHOプロジェクト(中国)」、治療に適した全体ランドスケープをつくりだした「チュンクワンオー医院(中国)」、市内電車の軌道敷を緑化した「鹿児島市の市電軌道敷緑化整備事業(日本)」、エリアマネジメント団



博多駅を中心とした連携整備プロジェクト(日本)

体等による景観・町並みづくり「博多駅を中心とした連携整備プロジェクト(日本)」、大規模な都市型イベント「釜山クリスマスフェスティバル(韓国)」などがあります。

5. 住宅系

住宅機能を主として景観形成を行っているグループです。

入居予定者によってまちづくりを進めた「ガーデンシティ舞多聞みつつけプロジェクト(日本)」、内陸地方の景観要素を取り入れた研修施設「紫荊山荘(中国)」、都



紫荊山荘(中国)



釜山クリスマスフェスティバル(韓国)

心の高級住宅エリアの環境整備である「ロイヤルパーク8番(中国)」、住民、研究者、芸術家、行政が取り組



甘川文化村(韓国)

んだアートを使ったまちの保全再生事業「甘川文化村(韓国)」などがあります。

6. アジア都市景観賞の特徴

地球環境問題がクローズアップされ、世界中の都市で真剣に取り組むようになったことから、自然環境に関して正面から取り組んだ授賞対象案件が多いです。また、長年にわたって蓄積されてきた歴史環境を尊重した事例も多く、今後も多くの自然環境、歴史環境を主とした物件の応募が続くものと思われます。

また、これまでの都市関連の表彰には、計画や設計を行った建築家や都市デベロッパーを対象としたものが多かったのですが、アジア都市景観賞は、各都市・地域の行政、企業、市民団体が一体として応募した物件がほとんどです。都市景観づくりに関わった様々な関係者によって応募された物件を表彰することを通じて、より多くの人々が都市景観を意識する機運を高める効果が期待されます。

アジア都市景観賞授賞案件(2010-2014)

系 範囲・規模	自然環境系	歴史環境系	公園系	業務系	住宅系
都市・地区レベル	● 余杭区 (中国, 2010) ● 恩格貝生態模範区 (中国, 2010) ● 西安世界園芸博覧会 (中国, 2011) ● 青島高新区の水系園林景觀形成 (中国, 2011) ● 未来社会適応のための大忠清園緑色観光事業 (韓国, 2012) ● 唐山湾エコ・タウン水環境総合整備計画 (中国, 2012) ● 環境都市 Da Nang (ベトナム, 2013) ● 関門海峡が結ぶ景觀に配慮したまちづくり (日本, 2013) ● 生態都市、住みよい銀川 (中国, 2014) ● 習水・大小鼓池の持続可能な景觀モデル地区 (中国, 2014) ● マイメンシン市の戦略的な都市計画 (バングラデシュ, 2014)	● 黒川温泉地区景觀づくり事業 (日本, 2010) ● 申港街道 (中国, 2010) ● 北京南鑼鼓巷 (中国, 2011) ● 原爆による廃墟からの都市復興 (日本, 2011) ● 歴史的資産を活用した国際観光都市づくり (タイ, 2011) ● 倉敷美観地区 (日本, 2012) ● 城北洞歴史文化地区造成 (韓国, 2012) ● 大邱再発見による都市再生プロジェクト (韓国, 2013) ● Hoi Anの都市景觀保全事業 (ベトナム, 2013) ● 竹田地区街なみ環境整備事業 (日本, 2014) ● 郡山近代文化プロジェクト (韓国, 2014) ● 烏鎮の新しい発展モード (中国, 2014)	● モエレ沼公園 (日本, 2010) ● ソウル・漢江公園 (仙遊島) (韓国, 2010) ● 香港・牛池湾公園 (中国, 2010) ● Bungkul公園改修事業 (インドネシア, 2013)	● マカオ・シティオブドリームズ (中国, 2010) ● 東営市中心地区開発プロジェクトの景觀設計 (中国, 2012) ● 杭州白馬湖農居SOHOプロジェクト (中国, 2013) ● 博多駅を中心とした連携整備プロジェクト (日本, 2014)	● ガーデンシティ舞多聞みつけプロジェクト (日本, 2011) ● 甘川文化村 (韓国, 2012)
街路、河川、施設等	● 太原長風文化ビジネス地区プラットフォーム整備事業 (中国, 2010) ● 済州オルレプロジェクト (韓国, 2011) ● 松坡水路復元事業 (韓国, 2013) ● 岩手・東日本大震災からの復興の象徴「三陸鉄道」 (日本, 2014) ● カトマンズ・バグマティ川清掃キャンペーン (ネパール, 2014)	● 熊本城復元整備とまちづくり (日本, 2011) ● 出島復元整備事業とまちづくり (日本, 2013) ● 緑雫による雨の日の松江プロジェクト (日本, 2013) ● 保存修理を通じて次世代に継承する人類の文化遺産姫路城とまちづくり (日本, 2014)	● シーサイドももち整備事業 (海浜公園) (日本, 2010) ● 沂源都市部居住環境改善事業 (中国, 2013) ● 華沢ワールドガーデンプロジェクト (中国, 2013) ● コロンボ・独立広場改修事業 (スリランカ, 2014)	● イオン・オーチャード&オーチャード・レジデンス (シンガポール, 2010) ● ボハン中央商店街景觀整備プロジェクト (韓国, 2011) ● チュンクワンオー医院 (中国, 2012) ● 鹿児島市の市電軌道敷緑化整備事業 (日本, 2012) ● 釜山クリスマスツリーフェスティバル (韓国, 2014)	● 紫荊山荘 (中国, 2011) ● ロイヤルパーク8番 (中国, 2012)

2010年度
[授 賞 案 件]



シティオブドリームズ
(マカオ)
Macau



モエレ沼公園
(日本 札幌)
Sapporo



申港街道
(中国 江蘇)
Jiangsu



恩格貝生態模範区
(中国 オルドス)
Ordos



シーサイドもち整備事業
(日本 福岡)
Fukuoka



漢江公園
(韓国 ソウル)
Seoul



余杭区
(中国 杭州)
Hangzhou



太原長風文化ビジネス地区プラットフォーム整備事業
(中国 太原)
Taiyuan



イオン・オーチャード & オーチャード・レジデンス
(シンガポール)
Singapore



牛池灣公園
(香港)
Hongkong



黒川温泉地区景観づくり事業
(日本 熊本)
Kumamoto



黒川温泉地区景観づくり事業
(日本 熊本)
Kumamoto



牛池灣公園
(香港)
Hongkong



黒川温泉地区景観づくり事業
(日本 熊本)
Kumamoto



黒川温泉地区景観づくり事業
(日本 熊本)
Kumamoto

2011

年度

[授 賞 案 件]



南鑼鼓巷
(中国 北京)
Beijing



歴史的資産を活用した国際観光都市づくり
(タイ バンコク)
Bangkok



2011西安世界園芸博覧会
(中国 西安)
Xian



ポハン中央商店街景観整備プロジェクト
(韓国 浦項)
Pohang



青島高新区の水系園林景観形成
(中国 青島)
Qingdao



紫荊山荘
(中国 深圳)
Shenzhen



ガーデンシティ舞多聞みつけプロジェクト
(日本 神戸)
Kobe



熊本城復元整備とまちづくり
(日本 熊本)
Kumamoto



原爆による廃墟からの都市復興
(日本 広島)
Hiroshima



済州オルレプロジェクト
(韓国 済州)
Jeju



福岡市都市景観賞
(福岡市)
Fukuoka

〈特別表彰: 栄誉賞〉

2012

年度

[授 賞 案 件]



ロイヤルパーク8番
(中国 北京)
Beijing



釜山甘川文化村
(韓国 釜山)
Busan



未来社会適応のための大忠清園緑色観光事業
(韓国 太田)
Daejeon



東營市中心地区開発プロジェクトの景観設計
(中国 山東)
Shandong



鹿児島市の市電軌道敷緑化整備事業
(日本 鹿児島)
Kagoshima



チュンクワンオー医院
(香港)
Hongkong



倉敷美観地区
(日本 倉敷)
Kurashiki



城北洞歴史文化地区造成
(韓国 ソウル)
Seoul



唐山湾エコ・タウン 水環境総合整備
(中国 河北)
Hebei

2013年度 [授 賞 案 件]



大邱再発見による都市再生プロジェクト
(韓国 大邱)
Daegu



環境都市ダナン
(ベトナム ダナン)
Da Nang



ホイアンの都市景観保全事業
(ベトナム ホイアン)
Hoi An



縁雲による雨の日の松江プロジェクト
(日本 松江)
Matsue



松坡水路復元事業
(韓国 ソウル)
Seoul



出島復元整備事業とまちづくり
(日本 長崎)
Nagasaki



華沢ワールドガーデンプロジェクト
(中国 江蘇)
Jiangsu



杭州白馬湖農居SOHOプロジェクト
(中国 杭州)
Hangzhou



関門海峡が結ぶ景観に配慮したまちづくり
(日本 下関・北九州)
Shimonoseki ,Kitakyushu



プンクル公園改修事業
(インドネシア スラバヤ)
Surabaya



沂源都市部居住環境改善事業
(中国 山東)
Shandong

2014年度 [授 賞 案 件]



釜山クリスマスツリー フェスティバル
(韓国 釜山)
Busan



博多駅を中心とした連携整備プロジェクト
(日本 福岡)
Fukuoka



群山近代文化プロジェクト
(韓国 群山)
Gunsan



保存修理を通じて次世代に継承する人類の文化遺産姫路城とまちづくり
(日本 姫路)
Himeji



東日本大震災からの復興の象徴「三陸鉄道」
(日本 岩手)
Iwate



バグマティ川清掃キャンペーン
(ネパール カトマンズ)
Kathmandu



烏鎮の新しい発展モード
(中国 烏鎮)
Wuzhen



習水・大小鼓池の持続可能な景観モデル地区
(中国 貴州)
Xishui



生態都市 住みよい銀川
(中国 銀川)
Yinchuan

[ア ジ ア 都 市 景 観 賞 審 査 員 賞]



独立広場改修事業 (スリランカ コロンボ) Colombo



マイメンシン市の戦略的な都市計画 (マイメンシンバングラデシュ) Mymensingh



竹田地区街なみ環境整備事業 (日本 竹田) Taketa



日本

姫路

(姫路市まちづくり指導課・都市景観指導室)

このたび、世界文化遺産姫路城の次世代への継承と、姫路城と調和した景観形成の取り組みについて「2014年アジア都市景観賞」を受賞できましたことを大変嬉しく思っております。

国際賞であるアジア都市景観賞を受賞したことにより、授賞式における報告会や各種メディアを通じて、国内外の多くの方々に姫路城の比類ない美しさと本市の景観形成の取り組みを知っていただくことができました。また、受賞後も賞のパフレットやホームページなどで継続的に紹介されることとなる



ため、アジアにおける本市の知名度・認知度の向上や、今後より多くの方々が本市や姫路城を訪れていただくきっかけにもなると期待しております。



今回の受賞は、姫路城を愛する市民をはじめ、長きに渡って姫路城に関わってこられた多くの関係者の努力の賜物であります。今後とも、本市は世界文化遺産である姫路城を次世代へと継承し、姫路城と調和した景観形成を図るため、たゆむことなく努力して参りたいと考えております。

福岡



松江



広島



岩手

(三陸鉄道)



韓国

釜山

(釜山広域市沙下区創造都市企画団)

2012年におけるアジア都市景観賞の受賞は、釜山市沙下区甘川文化村が持つユニークなロケーションと景観を保全するために、住民と行政が連携して献身的な努力を続けてきたことが認められたのと同時に、対外的に広く知られる機会となりました。景観賞を受賞した後、甘川文化村を訪れる国内外の観光客は2011年の3万人余りから2014年の80万人へと25倍以上の爆発的な増加を見せて、今現在も増加の一途をたどっています。



また、テレビや新聞など各メディアや国内外の著名人・機関によって「2012年アジア都市景観賞を受賞した甘川文化村」として広く紹介され、国内外から数多くの著名人や関係機関担当者が、ベンチマークのために甘川文化村へ視察に訪れるようになりました。

権威ある審査員の皆様の公正な審査による受賞が、「創造的都市再生という我々の政策方向性に間違いはなかった」という自信をもたらし、その後の各種外部評価においても高い評価を受け、数々の賞に輝く成果を上げています。

我が区は、アジア都市景観賞の受賞以降もこれに安住することなく、引き続き、都市再生の事例を国内外にPRし住民生活の質を向上させる努力を続けています。甘川文化村ならではのユニークな景観とアイデンティティを保持・発展させるために、世界的著名な建築家への空き家レジデンス提供やビジネスセンター整備、地区単位計画策定、案内センター設置などの取組を続けています。



さらには、2013年に中国の重慶で開催されたアジア都市景観賞受賞都市サミットにおいて、我が区は事例発表の機会を得ることが出来ました。我が区にとってアジア都市景観賞は、大変意義深く親しみを感じる受賞となっています。甘川文化村を世界に知らせるチャンスを与えてくださった国連ハビタット、福岡市および関係者の皆様に改めて心から感謝の意を表するとともに、アジア都市景観賞事務局の益々のご発展を心から祈念いたします。

今なお変化し続けている甘川文化村、是非もう一度お越しただいて、美しい景観を満喫してください。

大田



大邱



浦項



中国

銀川

アジア都市景観賞を受賞したことは、わが市にとって大きな励みとなり、都市化推進過程における重要な一里塚となりました。これを契機に、他の国や地域の先進事例を参考にしながら、銀川の優れた民族文化と歴史文化の特色に基づく最適な都市景観形成のモードを模索しながら、生態環境の回復と保護、そして、個性豊かな都市景観形成を積極的に推進していきます。

わが市は今後も、人間中心の理念を掲げ、居住環境の整備を生活改善の礎とする事業を推進し、都市機能を向上させることによって、市民が安心して働ける場所や楽しく生活できる環境を提供していきます。

また、地域の特色を堅持し、豊かな歴史文化、地理的優位性、自然資源などを生かして、個性を育成しながら都市の競争力を高めることによって、特色ある都市ブランドを形成していきます。

さらに、生態環境の保全に努めながらクリーンで安全安心な社会環境を構築し、バランスのとれた生態効率、社会効率、経済効率を念頭に、人と自然、都市と農村、あらゆる面において調和のとれた発展を目指して邁進していきます。

（銀川市住宅都市農村建設局〔夏斌、高德峰〕）



江蘇 泰州



山東 沂源



（紙面の1部分拡大）



あとがき

アジア都市景観賞に初めから参画できたことは、私にとりまして大変名誉なことであります。また、毎年行われる審査会や授賞式場において、昔からの友と再会し、新しい友人達と出逢えることは、格別な喜びでもあります。この場をお借りして、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、これまでの全ての受賞者の皆様に心からの祝福を申し上げます。

アジア都市景観賞は年追うごとに授賞対象が広がり、アジアの多くの国々の多分野にわたるプロジェクトにこの賞が贈られようになりました。表彰された数々のプロジェクトは、経済的また文化的背景に起因するデザインやスタイル・特性・実用技術の点でそれぞれ異なり、多様性に富んでいます。このような多様性があるからこそ、アジアは世界において最も興味深く、色彩豊か

でエネルギッシュな地域のひとつに成長していると確信しています。

アジア都市景観賞が5周年を迎えるに当たりまして、私達の目標であるアジアの持続可能な発展促進を達成するため、引き続き皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

最後に、アジアハビタット協会を代表して、この5周年記念アルバム作成の労を取っていただいた福岡アジア都市研究所の皆様に改めて感謝申し上げます。

アジアハビタット協会 主席 劉 興達
(Patrick LAU)

